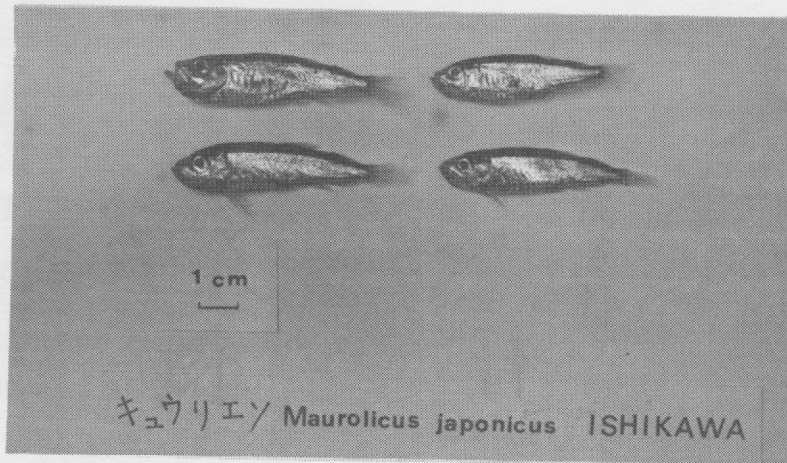


付 図

あるとともに、場所上、研究上不可欠のものであると考へる。



小山武夫

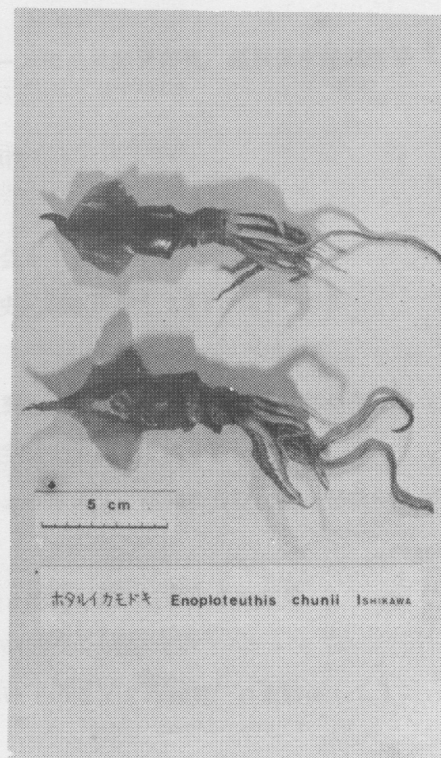
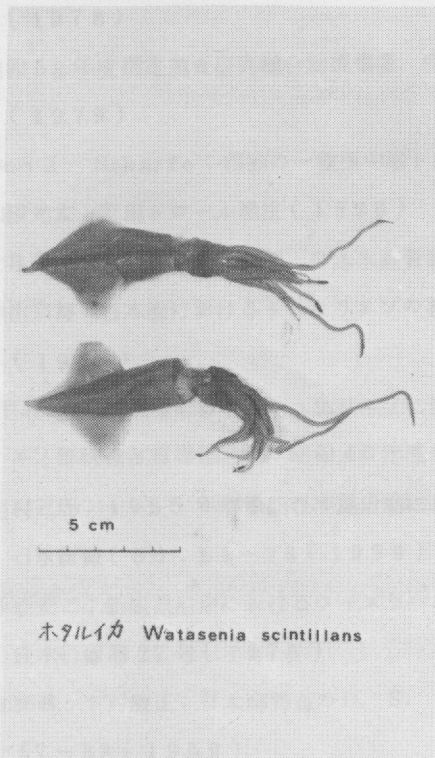
東京大学

小山武夫

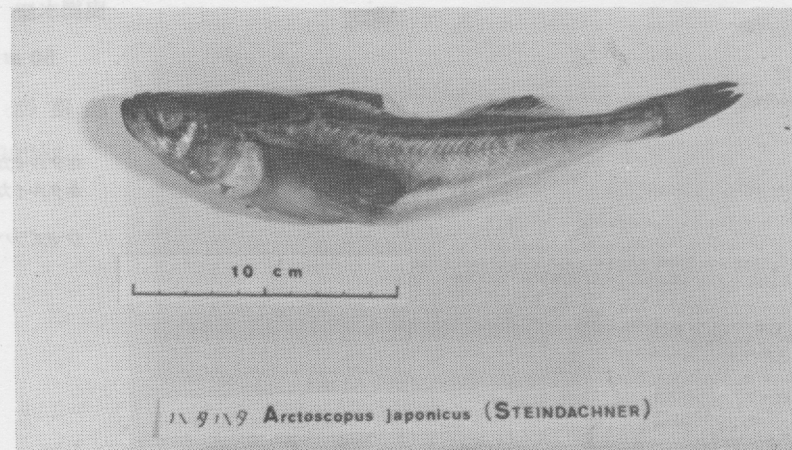
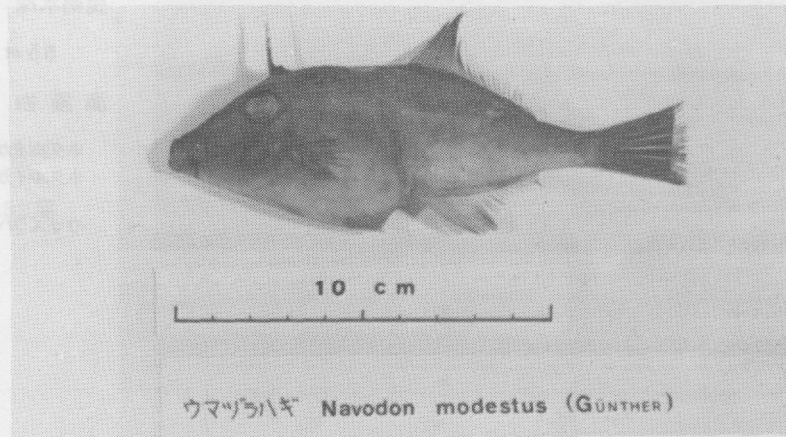
○ 佐藤啓夫、我が国の魚類生態に関する基礎的研究、鹿児島大学水産学部紀要第4号

第2号(1971)

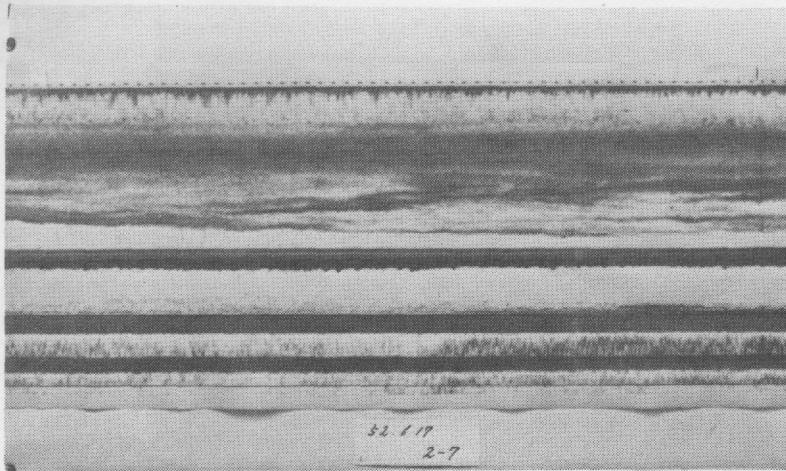
○ 昭和52年度調査報告研究報告物心成果、中瀬トローラー船具調査研究、島根県水産試験場



付図1. キュウリエソ・ホタルイカ・ホタルイカモドキ



付図 2. ウマヅラハギ・ハタハタ・スケトウダラ



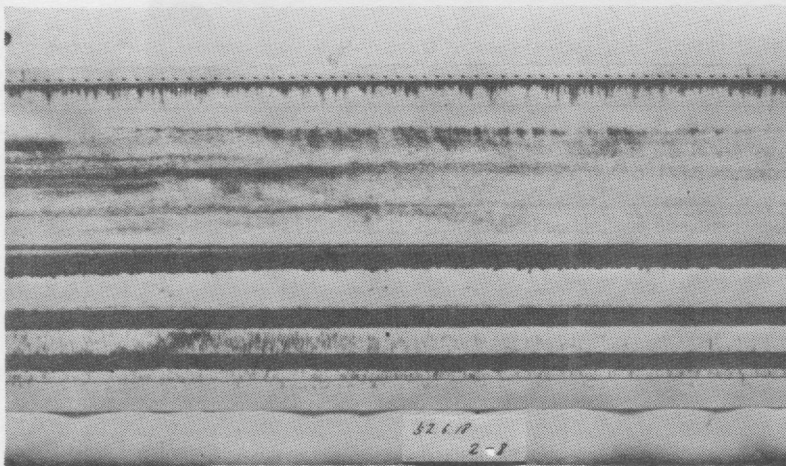
曳網水深

55 m

漁獲物

ホタルイカ
ホタルイカモドキ) 9kg

ウマズラハギ 13尾



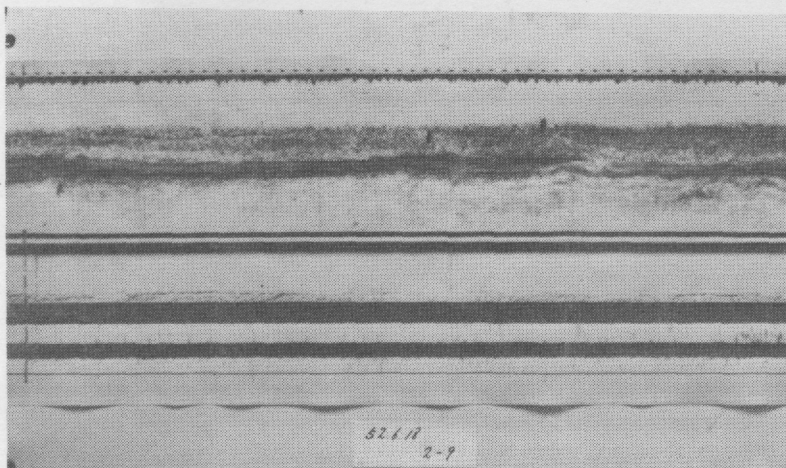
曳網水深

50 m

漁獲物

ホタルイカ
ホタルイカモドキ) 9kg

ウマズラハギ 2尾



曳網水深

60 m

漁獲物

ホタルイカ
ホタルイカモドキ) 2kg

付図3-1 魚群探知機の記録

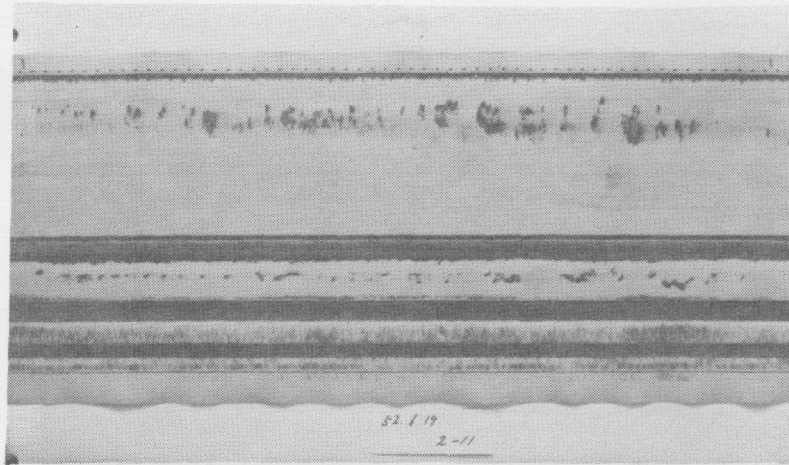
曳網水深

38 m

漁獲物

ウマズラハギ 9kg

ホタルイカ 58尾
ホタルイカモドキ

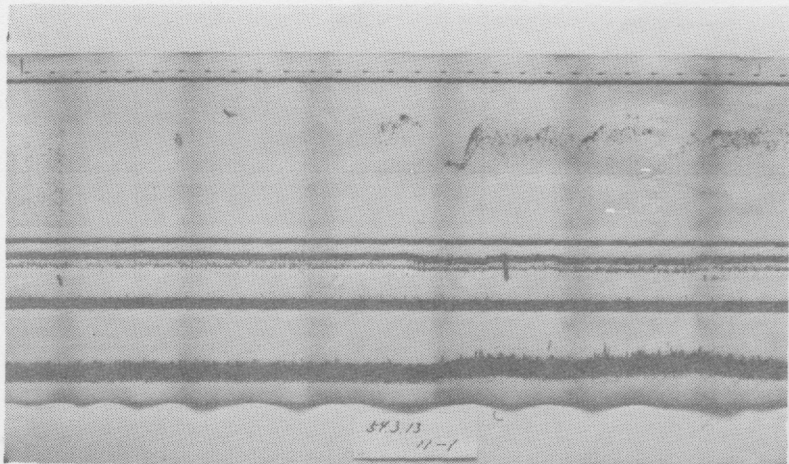


曳網水深

38 m

漁獲物

ウマズラハギ 200kg

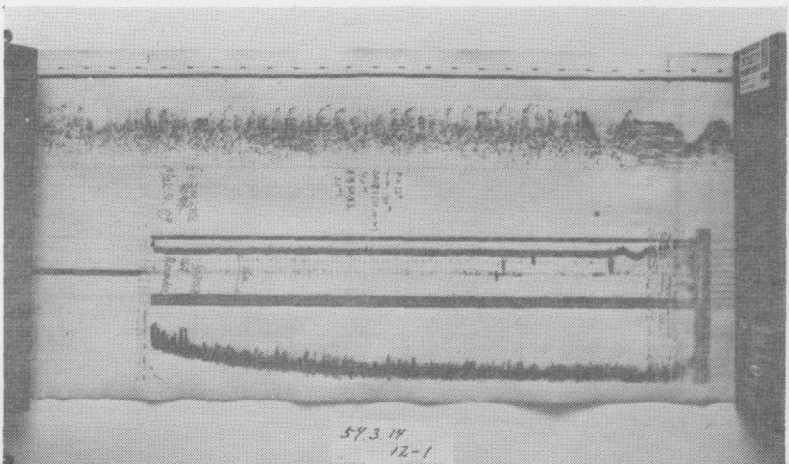


曳網水深

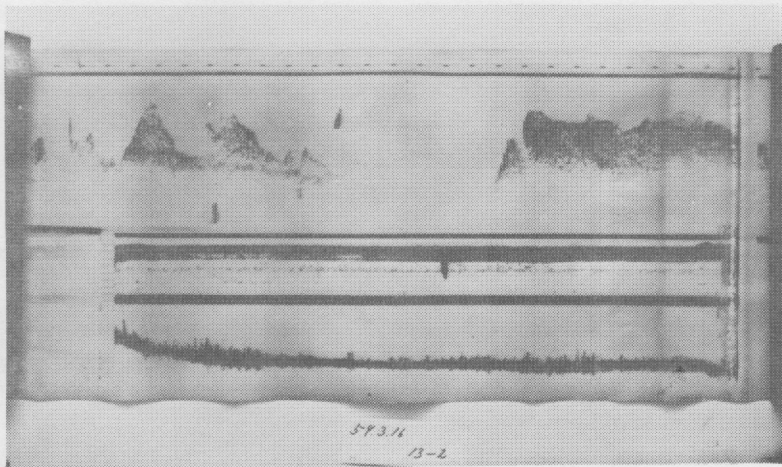
38 m

漁獲物

ウマズラハギ 250kg



付図3-2 魚群探知機の記録



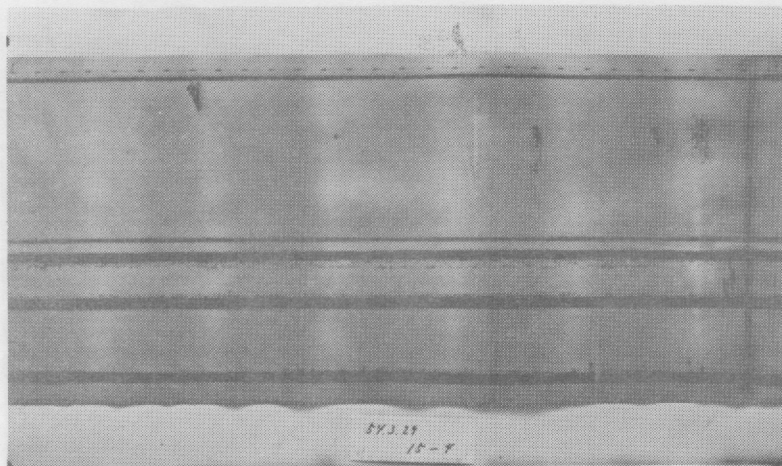
曳網水深 37 m

37 m

漁獲物

ウマズラハギ 500 kg

マイワシ 1尾



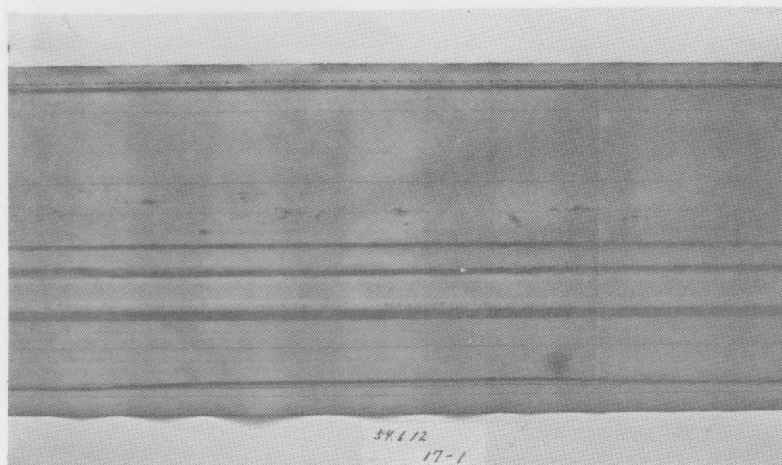
曳網水深 38 m

38 m

漁獲物

ウマズラハギ 500 kg

ウマズラハギ 2尾



曳網水深 176 m

176 m

漁獲物

キュウリエソ 10 kg

スケトウダラ 3尾

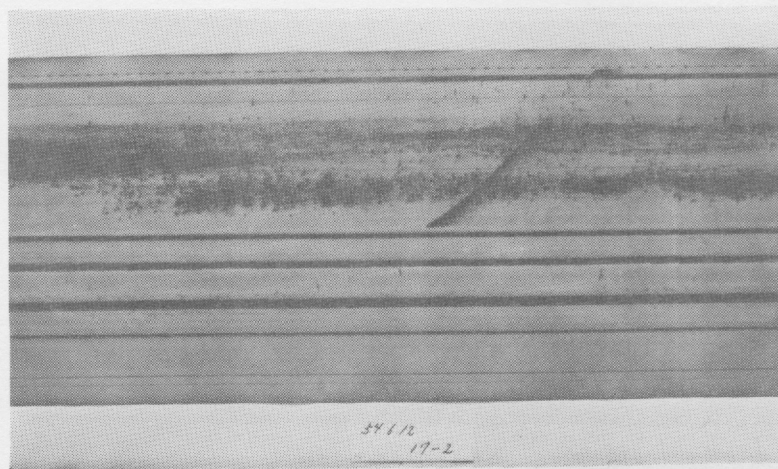
付図 3-3 魚群探知機の記録

曳網水深

50 m

漁獲物

ホタルイカ) 2kg
ホタルイカモドキ
マイワシ
スルメイカ
ウマズラハギ

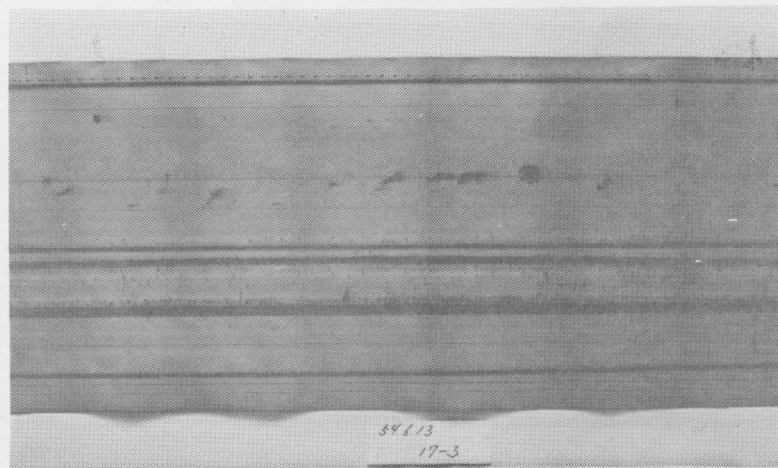


曳網水深

135 m

漁獲物

ホタルイカ) 30尾
ホタルイカモドキ
マイワシ
スルメイカ

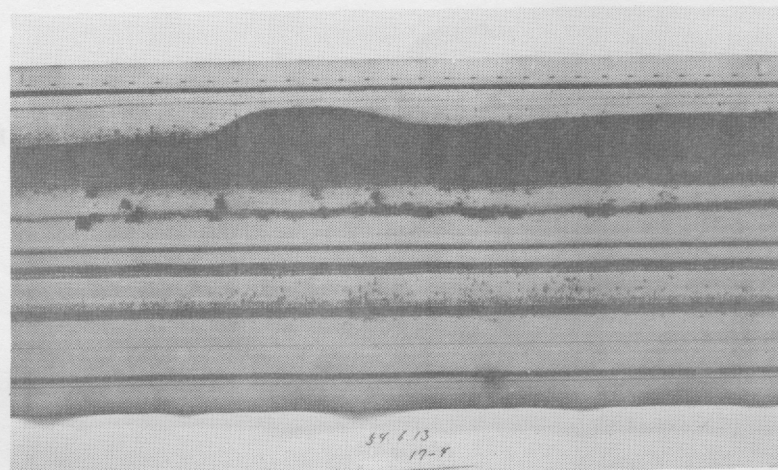


曳網水深

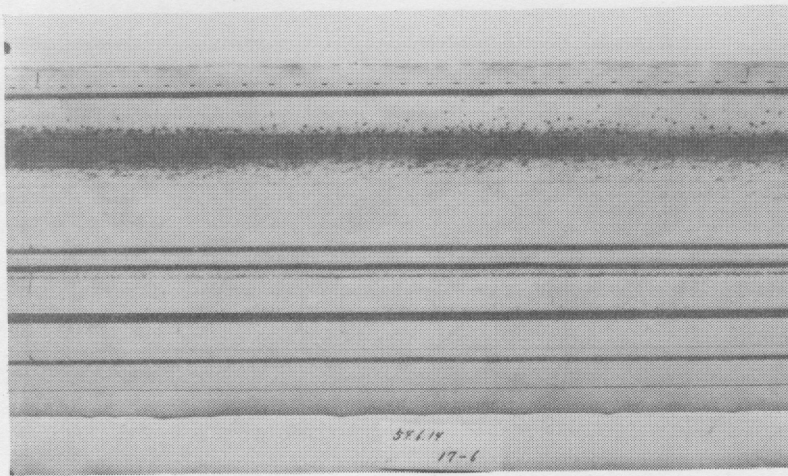
60 m

漁獲物

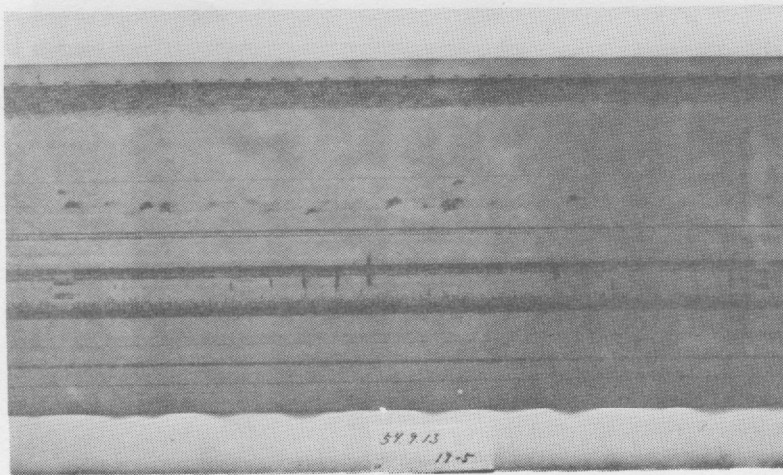
ウマズラハギ 250 kg



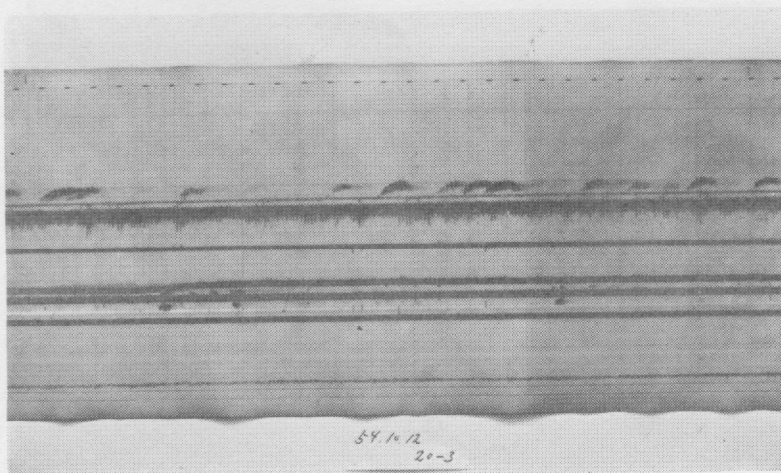
付図3-4 魚群探知機の記録



曳網水深 56 m
 漁獲物
 ウマズラハギ 20 kg
 ハタハタ 53 尾



曳網水深 122 m
 漁獲物
 キュウリエソ 30 kg



曳網水深 165 m
 漁獲物
 キュウリエソ 100 kg
 スルメイカ 2 尾

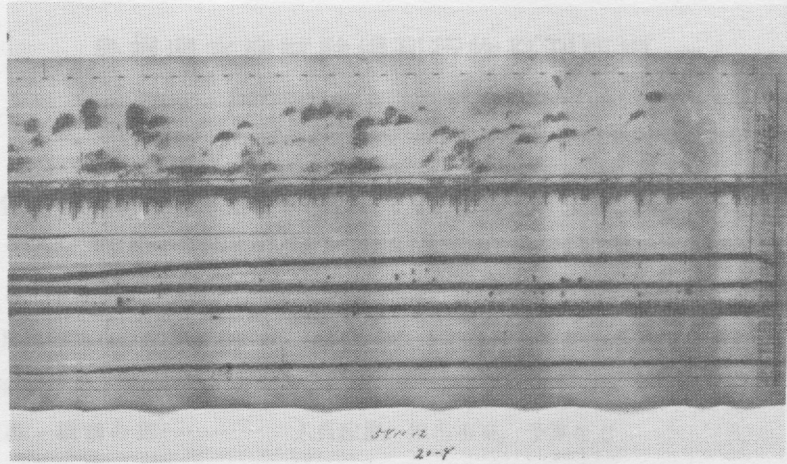
付図 3-5 魚群探知機の記録

曳網水深

147 m

漁獲物

キュウリエノ 150 kg

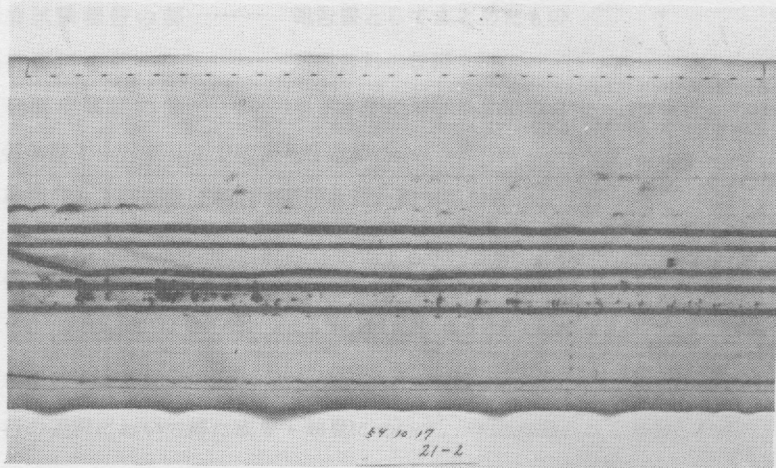


曳網水深

177 m

漁獲物

キュウリエノ 150 kg



付図 3-6 魚群探知機の記録

島根県水産試験場刊行物発刊要綱

(昭和56年3月)

1. 事業報告書 (島根県水産試験場事業報告 BULLETIN OF SHIMANE PREFECTURAL FISHERIES EXPERIMENT STATION)

- (1) 原則として事業年度終了後一年以内に刊行する。
- (2) 事業年度に実施した全事業(県単, 国補, 委託)の遂行結果を収録する。
- (3) 報告書の構成は下記のとおりとする。
 - I 組織・機構の部…………… 人員配置, 担当事業, 予算など
 - II 事業実施概要の部…………… 全事業の経過概要
 - III 調査試験報告の部…………… 報告書としてまとめたもの
 - IV 調査資料の部…………… 基礎資料の収録
 - V 既刊研究業績の部…………… 事業年度における業績の目録
- (4) 原稿は毎年度11月末日までにとりまとめる。
- (5) 原稿の校閲, および編集は場内で選任された編集委員によって行う。

2. 研究報告書 (島根県水産試験場研究報告 REPORT OF SHIMANE PREFECTURAL FISHERIES EXPERIMENT STATION)

- (1) 刊行は不定期とする。
- (2) 事業遂行の過程において得た成果・知見について, 学問的視点から解析した報告を対象とする。
- (3) 投稿は随意とし, 原稿は担当科長・分場長の校閲を受ける。
- (4) 学術誌等で発表した報告は抄録とする。
- (5) 原稿の審査および編集は, 事業報告編集委員が兼ねて行う。

3. 事業別報告書

- (1) 刊行に当っては, 事前に事業報告編集委員に報告し, 刊行物として登録する。
- (2) 報告書の表紙右上部に登録番号をつける。
- (3) 余部を図書室に保管する。
- (4) 事業報告書への再録は原則として抄録とするが, 基礎資料については全資料の再録を認める。

編 集 委 員

岩本宗昭・安達二郎・石田健次

服部守男・中村幹雄

昭和55年7月10日印刷 昭和55年7月15日発行

発行者 島根県水産試験場

〒697 島根県浜田市瀬戸ヶ島町25-1

電話 浜田(08552) 2-1720(代)

印刷所 弘文タイプ印刷所

住所 浜田市浅井町5ノ5(5万堂)